

ホルモン療法は想像以上に危険である

たんばくタイプ	女性ホルモン受容体	HER2	Ki67(高い)	薬
ルミナルA	●			ホルモン剤
ルミナルB	●		●	ホルモン剤 + 抗がん剤
ルミナルHER2	●	●		ホルモン剤 + 分子標的薬 + 抗がん剤
HER2陽性		●		分子標的薬 + 抗がん剤
トリプルネガティブ			● X	主に 抗がん剤

(原図の出典: NHK-きょうの健康, 2022年10月)

主なホルモン療法薬	
抗エストロゲン薬	女性ホルモンのがん細胞への働きを阻害
・タモキシフェン	毎日服用
・トレミフェン	毎日服用
・フルベストラント(フェノドックス)	筋肉注射
アロマターゼ阻害薬	脂肪組織などでの女性ホルモン産出を抑制
・エキセメスタン	毎日服用
・アナストロゾール(アリミデックス)	
・レトゾール(フェマーラ)	
LH-RHアゴニスト製剤	卵巣での女性ホルモン産出を抑制
・リュープロレリン(リュープリンなど)	皮下注射
・ゴセレリン(ゾラデックス)	※カッコ内は商品名

(原図の出典: 産経新聞, 2024年6月)

抗エストロゲン薬の副作用

【タモキシフェンの場合】

<重大な副作用>

子宮体がん、子宮肉腫、子宮内膜ポリープ、子宮内膜症、無顆粒球症、白血球減少、好中球減少、貧血、血小板減少、視力異常、視覚障害、血栓塞栓症、静脈炎、劇症肝炎、胆汁うっ滞、肝不全、高カルシウム血症、間質性肺炎、アナフィラキシー、血管浮腫、皮膚粘膜眼症候群、水疱性類天疱瘡、瘰癧、など

(トレミフェンやフルウベストラントも同程度の副作用)

↑ これなら死んだほうがマシ

<作成: stnv基礎医学研究室>

アロマターゼ阻害薬の副作用

【エキセメスタンの場合】

<重大な副作用>

肝炎、肝機能障害、黄疸

<主な副作用>

多汗、めまい、しびれ、頭痛、知覚障害、ふらつき、不眠、傾眠、抑うつ、根管症候群、食欲不振、悪心、吐き気、腹痛、腸管閉塞、心窩部痛、高血圧、動機、ほてり、疲労、発疹、皮膚そう痒症、脱毛、爪の変化、骨粗鬆症、関節痛、筋痛、弾発指、狭窄性腱鞘炎、鼻出血、肺炎、膀胱炎、不正出血、過敏症、体重減少、倦怠、体臭、浮腫、味覚異常、など

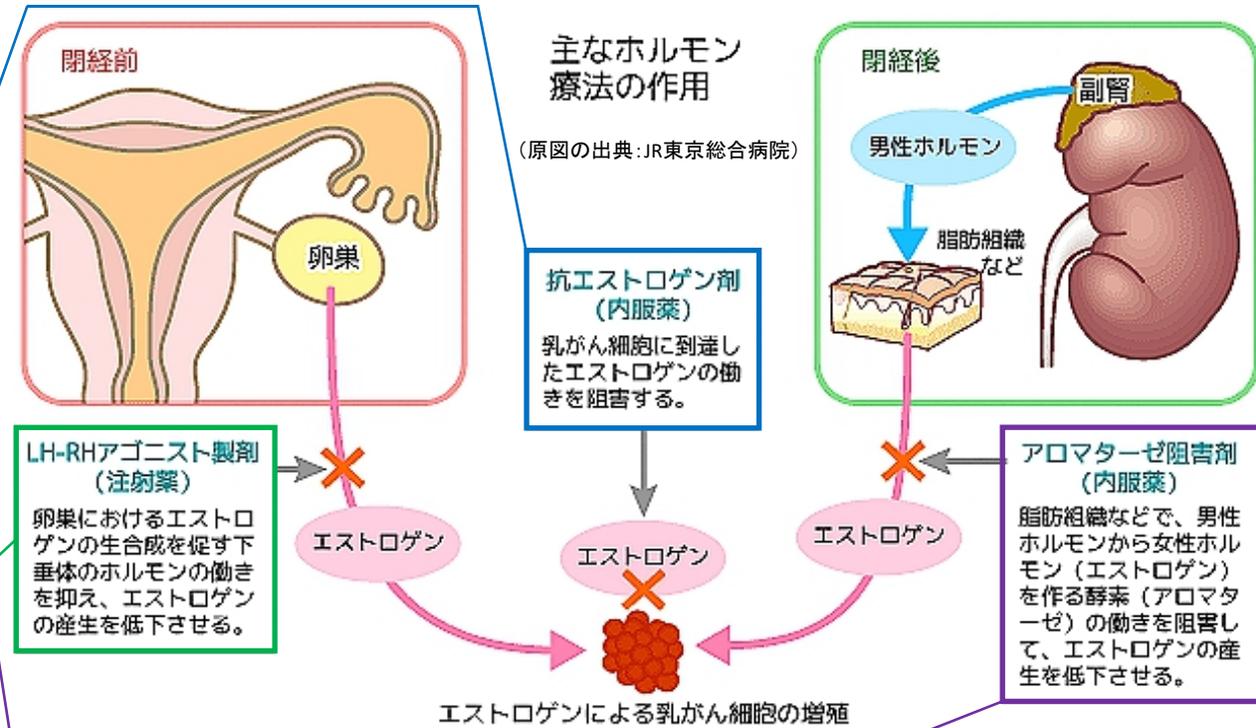
LH-RHアゴニスト製剤の副作用

【リュープロレリンの場合】

<重大な副作用>

間質性肺炎、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、アナフィラキシー、肝機能障害、下垂体卒中、心筋梗塞、脳梗塞、静脈血栓症、肺塞栓症、心不全、糖尿病の発症または増悪、骨疼痛の一過性増悪、尿路閉塞、脊髄圧迫、更年期障害様のうつ状態、視力障害、視野障害、など

← ↑ これなら死んだほうがマシ



ホルモン療法による全般的な副作用

更年期障害と同様の症状(のぼせ、ほてり、発汗、頭痛、肩凝り、うつ、筋肉痛、関節のこわばりなど)に始まり、やがて生殖機能の停止、脂質代謝の異常、動脈硬化の進行、骨密度の低下が起こるようになる。もう、この段階から健康体に戻ることは非常に難しい。

それ以上に恐ろしいことは、がん細胞が種々の薬剤耐性を獲得し、いずれ反撃に出ることである。